

資産の有効活用について

1. はじめに

1960年代の終わりに、わが国は「世界第2位の経済大国」となり、以来、約40年間、経済成長が国民生活に向上をもたらし、経済力は国際政治や外交の源泉となりました。

しかし、今、わが国は世界に類を見ないスピードで少子、高齢化が進み、人口減少が現実のものとなり、それが供給と需要の面で経済の成長に深刻な影響を及ぼすおそれが大きくなりました。

また、経済のグローバル化の中で、BRICSと呼ばれる新興工業国等との競争の激化や、資源とエネルギーの供給確保、環境への対応など、日本の経済は大きな節目を迎えています。

一方、内政面においても、構造改革の推進による都市と地方の格差の拡大や、三位一体の改革による地方自治体の財政難、また、地方分権の推進や道州制への取り組みなど、様々な面で課題が顕著となり、特に地方の行政のあり方は、大きな変革を求められています。

こうしたなかで、財政基盤の弱い地方が生き残っていくためには、今ある資産や資源を見直し、

有効に活用する視点が重要と考えています。

2. 資産の有効活用における本県の課題

高知県は、東京、大阪などの大都市圏から遠く離れているうえに、北は四国山地、南は太平洋により他地域と隔てられた地理的地形的条件のために、従来から他地域との交通網の発達が遅れ、そのために産業や経済などの各方面で著しく立ち遅れています。

また、概ね30年以内に50%の確率で発生と言われていた南海地震の揺れや津波により、県下全域が大きな被害を受けることも想定されています。

従って、産業や経済を支える社会基盤として、また、地震などによる災害時の緊急輸送道路として、道路網の整備は、県政の最重要課題の一つとして取り組んでいますが、高度経済成長期に造られた橋梁がこれから更新期を迎えることや、中山間地域では急峻な地形的条件から道路整備に多額の費用を要するなどの課題があります。

高知県知事 **橋本 大二郎**



3. 資産の有効活用の取り組み

これから更新期を迎える橋梁につきましては、アセットマネジメントの手法を取り入れて、最適な更新時期や管理方法を検討していく計画で、その前提となるデータを収集するための橋梁の点検を、昨年度策定した「橋梁点検マニュアル」に基づき、今年度から職員が実施しています。

また、中山間地域の道路整備では、現在の道路を可能な限り活用する「1.5車線の道路整備」の推進や、地域ITSの取り組みである「中山間道路走行支援システム」や「中山間歩行者ITS」などのITを用いたソフト施策による取り組みを進めています。

このシステムは、地形的制約から道路の拡幅や歩道を設置することが難しい中山間地域のハード整備を補完するソフト面での安全対策システムで、ハード整備に比べて数段のコスト低減を図ることができ、早期の対策が可能となります。

本県の道路整備では、真に必要な道路の整備を引き続いて行いながら、これらの取り組みによりまして、今ある資産の有効活用も図っていきたい

と考えています。

4. おわりに

高知県では、三位一体の改革による国庫補助負担金の廃止と縮減や地方交付税の大幅な削減により、危機的な財政状況となっています。

このため、平成17年12月に「高知県行政改革プラン」を策定し、自らの力で歩む高知を目指して、行政改革に取り組んでいます。

この改革では、単なる予算の削減だけでなく、組織や人的資源の有効活用を図るため、業務のアウトソーシングにより民間の力を活用し、少ない経費と人員で最大の県民サービスを提供できる体制を目指しています。

今後も、今ある資産と資源を活用し、高知らしい地域づくりを続けていきたいと考えています。